

香川県の地震

令和5年（2023年）9月

香川県の地震活動

| | | |
|----------------|-----|---|
| 震央分布図、断面図 | ・・・ | 1 |
| 地震概況 | ・・・ | 1 |
| 香川県の地震表（震度1以上） | ・・・ | 2 |
| 震度分布図 | ・・・ | 2 |

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会 （注）

| | | |
|----------------------------|-----|---|
| 評価検討会調査結果 令和5年（2023年）10月6日 | ・・・ | 3 |
|----------------------------|-----|---|

（注）直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

| | | |
|---------------------|-----|-----|
| 地震や火山現象等に伴い発生する津波 2 | ・・・ | 4～5 |
|---------------------|-----|-----|

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

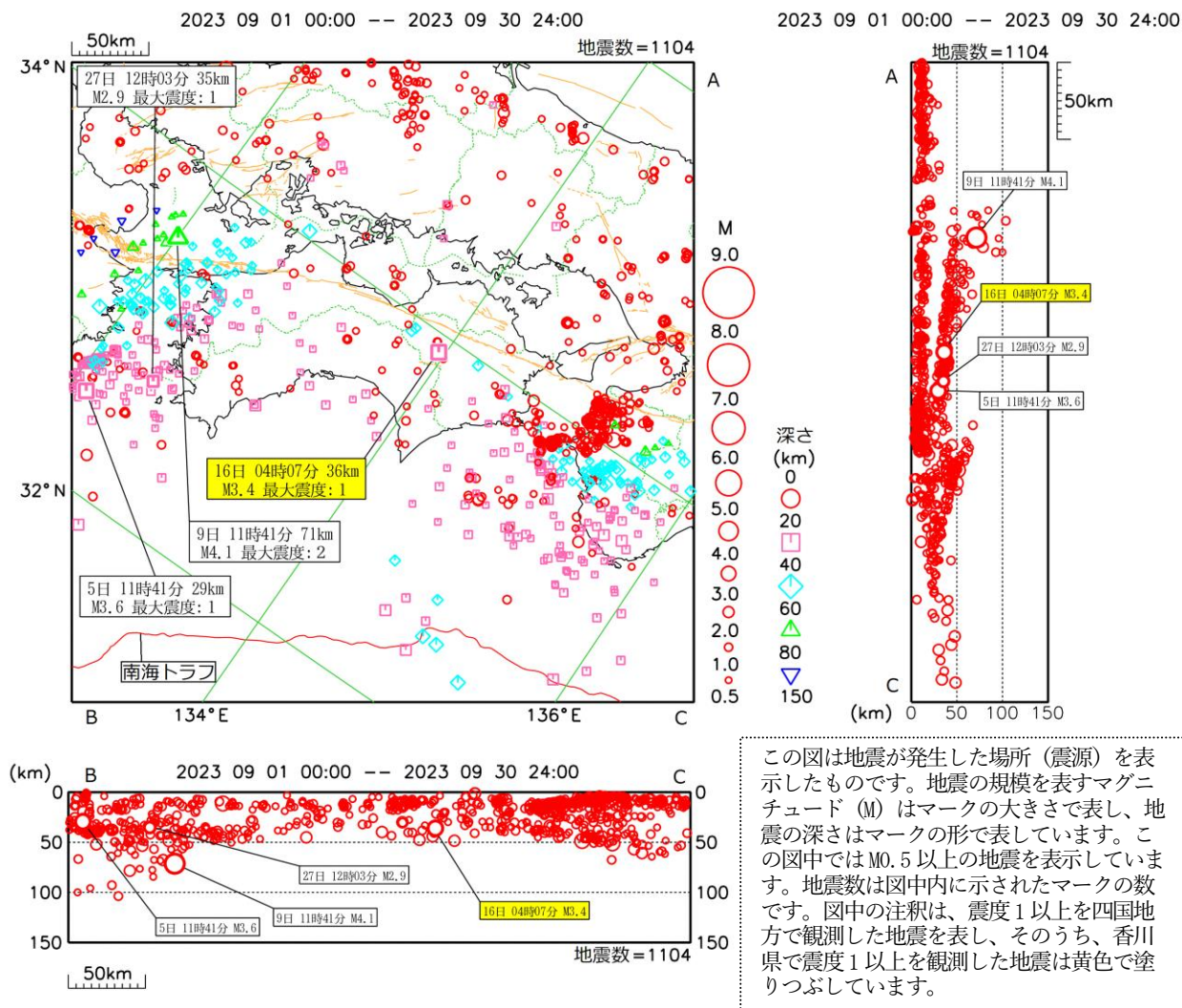
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2023年9月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした（前月は1回）。

16日04時07分 徳島県北部の地震（深さ36km、M3.4）により、高松市・丸亀市・善通寺市・宇多津町・多度津町・三豊市・綾川町で震度1を観測しました。この地震では、岡山県倉敷市・里庄町、徳島県美馬市・徳島三好市、愛媛県四国中央市で震度1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の3回でした。

5日11時41分 日向灘の地震（深さ29km、M3.6）により、高知県宿毛市、大分県佐伯市、宮崎県延岡市・高千穂町で震度1を観測しました。

9日11時41分 伊予灘の地震（深さ71km、M4.1）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市・伊方町・西予市、山口県柳井市・平生町・周防大島町・周南市・下松市で震度2を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度1を観測しました。

27日12時03分 豊後水道の地震（深さ35km、M2.9）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。

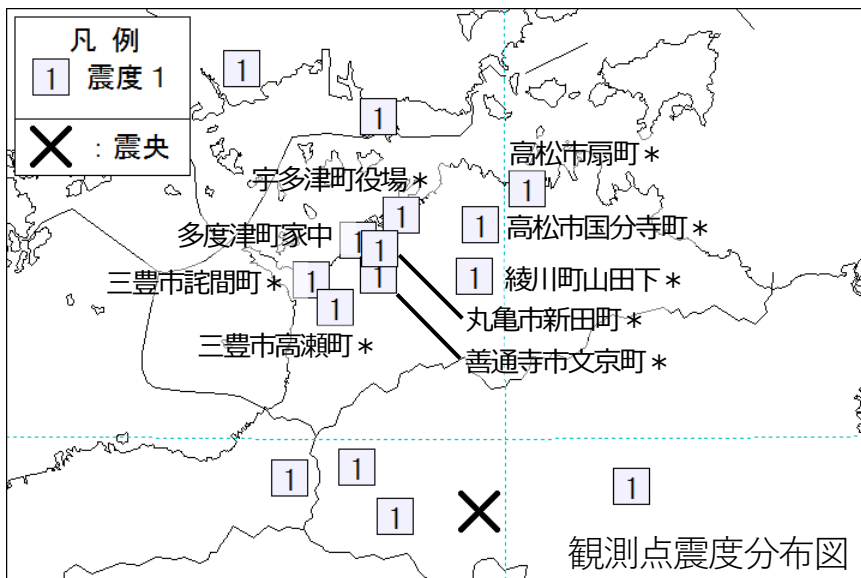
◎香川県の地震表（震度 1 以上）

| 震源時（年月日時分） 各地の震度 | 震央地名 | 緯度 | 経度 | 深さ | マグニチュード |
|--|-------|-------------|--------------|------|---------|
| 2023年09月16日04時07分 香川県 | 徳島県北部 | 33° 54.0' N | 133° 57.4' E | 36km | M3.4 |
| 震度 1 : 高松市扇町*, 高松市国分寺町*, 丸亀市新田町*, 善通寺市文京町*, 宇多津町役場*, 多度津町家中, 三豊市高瀬町*, 三豊市詫間町*, 綾川町山田下* | | | | | |

*は気象庁以外の震度観測点

◎震度分布図

2023年09月16日04時07分 徳島県北部の地震



*は気象庁以外の震度観測点

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

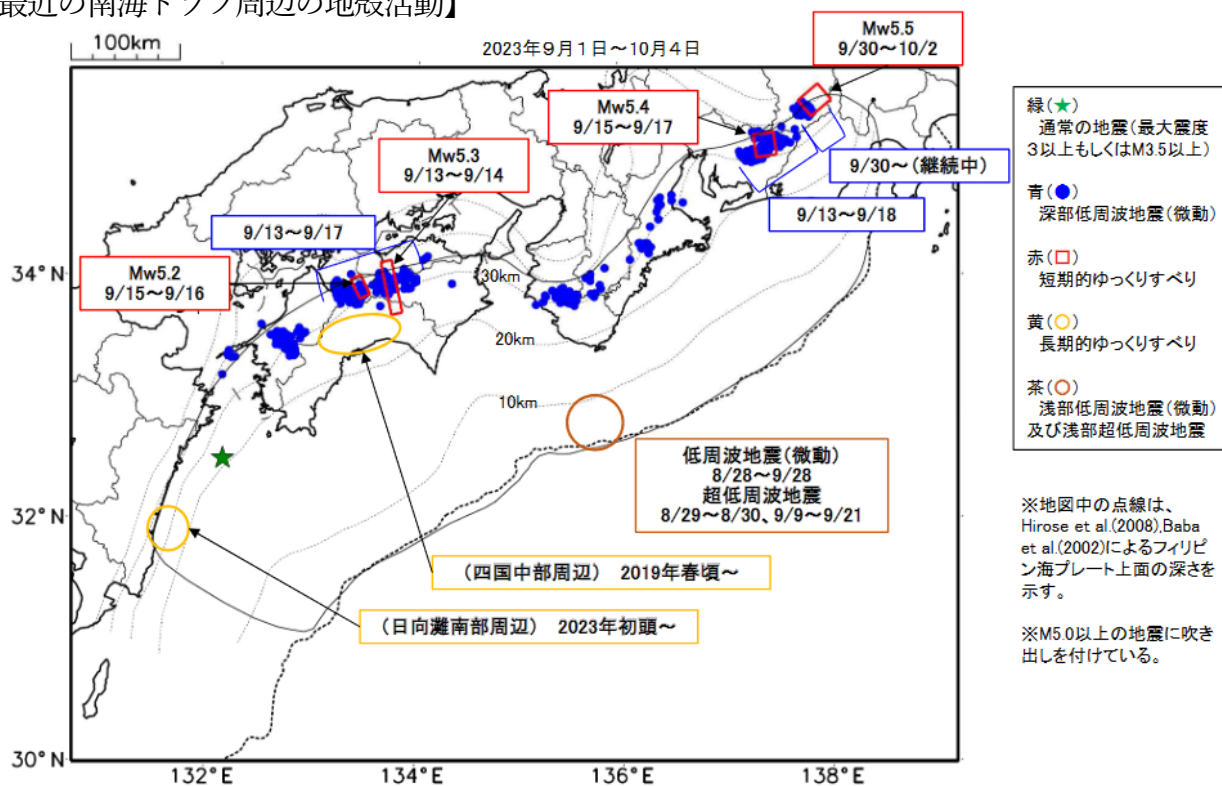
令和5年(2023年)10月6日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【東海】気象庁の解析結果を示す。【四国東部から四国中部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、日向灘南部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。
浅部低周波地震(微動).....【和歌山県南方沖】気象庁、防災科学技術研究所及び海洋研究開発機構の解析結果を元に活動期間及び
及び浅部超低周波地震 おおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2310/06a/nt20231006.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

地震や火山現象等に伴い発生する津波 2

先月に続き、津波を発生させる地震や火山現象等、現象の種類と防災上の留意事項について説明します。津波の原因となる事象が発生してから日本に津波が到達するまでの時間（以下、「リードタイム」といいます。）が短い長い、日本の陸地での揺れがあるかないかに着目して、今回はリードタイムの長いケースについて、シナリオ（物事の進み方）と防災上の留意事項を解説します。

<リードタイムが長い津波の場合の防災上の留意事項 >

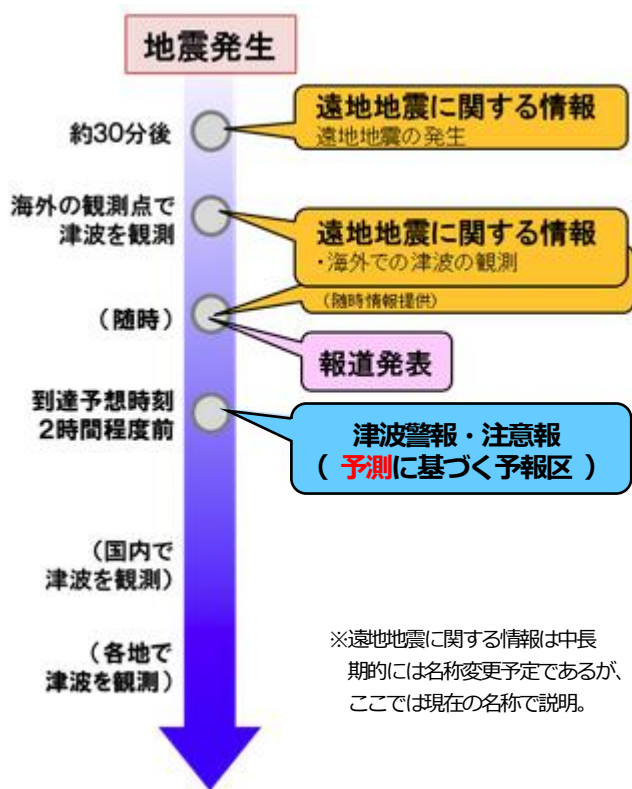
- 随時更新される「遠地地震に関する情報」を参照し、最新の情報を入手して避難などの準備を行う
- 津波警報等の情報を見聞きしたら、直ちに避難

<ケース4>

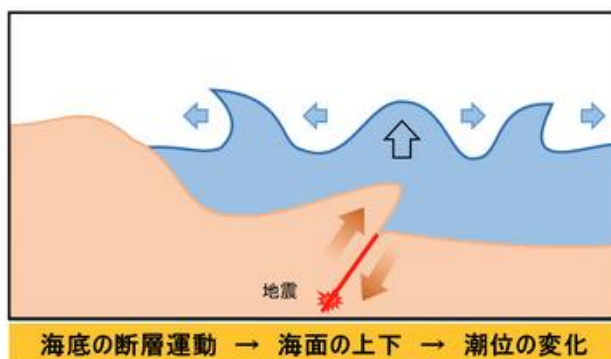
リードタイムが長く、国内で地震の揺れが観測されない場合で、地震が原因となるもの

○遠地地震による津波

代表事例として「2010年チリ中部沿岸の地震」「1960年チリ地震津波」などがあります。気象庁は地震発生後30分程度で大きな地震が発生したことや日本への津波の有無（調査中を含む）について発表し海外の津波観測点で津波が観測された場合等に続報を発表します。また日本への津波到達の2時間程度前を目途に津波警報等を発表します。



■地震に伴う津波



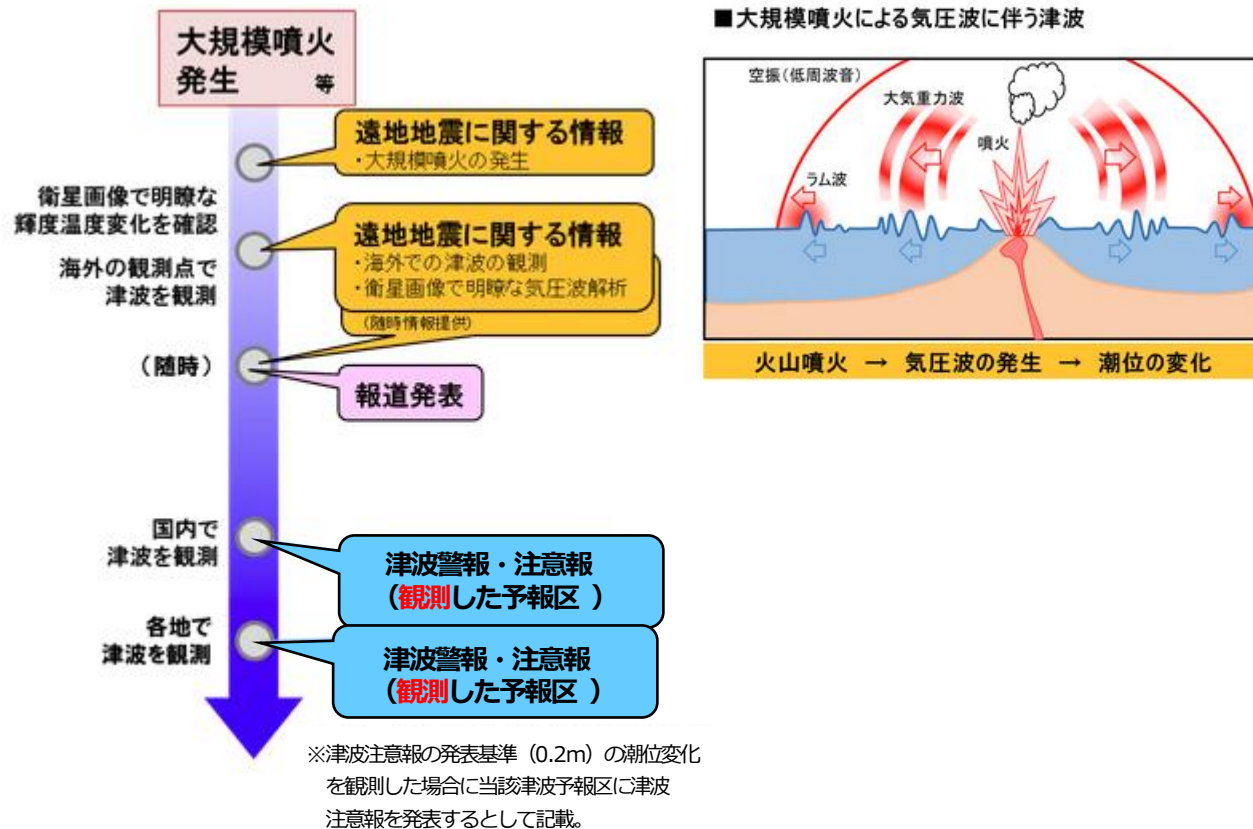
※遠地地震に関する情報は中長期的には名称変更予定であるが、ここでは現在の名称で説明。

<ケース5>

リードタイムが長く、国内で地震の揺れが観測されない場合で、海外の火山噴火等が原因となるもの

○海外の火山噴火による地形変化や気圧波、火山の山体崩壊等や海底地すべりに伴う津波

代表事例として「2022年フンガ・トンガ-フンガ・ハアパイの噴火」「1883年クラカタウの噴火」などがあります。気象庁は火山噴火や山体崩壊等の発生時刻が分かる場合には到達予想時刻や津波の原因となる火山現象等の観測の状況について随時発表を行い衛星画像解析で明瞭な変化が観測された場合等「津波発生の可能性が高まった」場合は記者会見等で解説します。また津波の原因となる火山現象等を観測できた場合は原則として国内の津波観測値に基づき津波警報等を発表します。



気象庁ホームページ 地震や火山現象等に伴い発生する津波
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami/various_causes.html